

松嶺 そういうメッセージを強く訴えるために、アートがあるので。漆も環境に還りますよね？

松沢 漆もまさに、そうです。漆も紫外線で全部分解されるので。紫外線を当てない状態で使っていけば、ずっと残る。大事に使えば治せるし、紫外線を当てれば分解して、自然に還る。なかなか人間の力でつくろうとすると大変なんだけど、すでに自然界にある。木を育てて、樹液を取れば使えるっていうのは漆くらいしかないですよ。もっと漆のよさっていうのを素材として見直すすごいことができるんじゃないかなと思います。まだ先かもしれないですけど、木を植えるとかそういうことも今のうちからやっていかないといけないと思っています。松嶺さんにも一度来ていただいたんですけど。

松嶺 そうですね。また行きたいです。

金野 今までどのくらい植えられたんですか？

松沢 今は、5000 本くらいですかね。苗木でも育てていて、まだまだこれから増えていくんですけど。杉の木を伐採したところに、漆を植えているんですけど、三田さんの山も隣にあるんですよ。

三田 ちょっと話が外れますけど、上米内の駅の利用も素敵ですよ。廃線になった駅ではなくて、汽車がくる駅で。

松沢 もともとは上米内の駅を何かに使ってくれませんかという JR の募集があったんですよ。それでクラウドファンディングの CAMPFIRE と JR が組んで、資金を集めて、駅を活用するっていうのがあって、なにかできるかなと思って応募したんです。そしたら通って。東日本から 40 件くらい応募があって、上米内と新潟の 2 箇所が選ばれて。我々もそこをどうしようかというのはいま手探りでやっていたんですけど、人が集まるようになって、休憩するだけでもいいし、打ち合わせをするときにも使えるし、誰かがいる場所になったんですよ。駅員がいないっていう意味では無人駅なんですけど、誰かがいるっていう意味では無人駅ではない。山田線は全体的に、無人駅になっていて。駅舎も全部壊して、待合室だけの小さい小屋みたいになってるところばかりです。その中で上米内駅は大正時代にできた駅舎が残っていて、それをリフォームして使っているんです。開業した当時の建物ですね。それがどんどん壊されているわけですよ。それが非常にもったいないのがありますし。JR としては地元の人が使ってくれるいい事例として紹介されていますし、我々も使わせてもらっているものでありがたいですし、お互いいい感じです。

三田 親父の代は、山の人のたちって、上米内まで山田線で行って、うちの山まで歩いて行って、泊まって帰ってくるみたいな感じでしたね。

松沢 盛岡から近いんですけどね。ちょっと行くだけで山奥っていう。なかなか珍しいというか、盛岡の人も知らないですよ。上米内駅。映画の『影裏』の撮影にも上米内が使われたりして。

松嶺 釣りしてたあたり、米内川ですよ。

松沢 雫石の川と米内川で撮影したって聞きましたね。ああいう雰囲気映画に生かされて、嬉しいです。

三田 はじめ山の中で撮らせてくれない？って頼まれたんですけど、ブルトナーで地形変えろとかめんどくさいこと言われたので「ゴメン、できない」って。(笑)

松嶺 また全然関係ないんですけど、うちのじいちゃんばあちゃん、自分たちで山に入って、木材を倒して、家を建てたタイプなんですけど、なんかその感じの話聞くと面白いんですけど。当時そこに製材屋さんが来てくれたとかって。

三田 そうそうそうそう。

松嶺 自分たちがこの山から切っていくよって親戚から譲り受けたり、買ったりした山に入って行って、木を倒したところに製材屋さんが来てくれて、カットしてくれる。

三田 今自分が住んでいる家もそういう形で 2007 年に建てました。おもしろいですよね。すごい楽しいですね。

金野 それは自分でこの木がいいって選ぶんですか？

三田 選んでもらいましたけど、昔は結構普通だったみたいですね。

松嶺 今聞くと恐ろしいなって。

三田 建てるのも？

松嶺 うちのおじいさんが大工やって、みたいです。

三田 それはすごい。

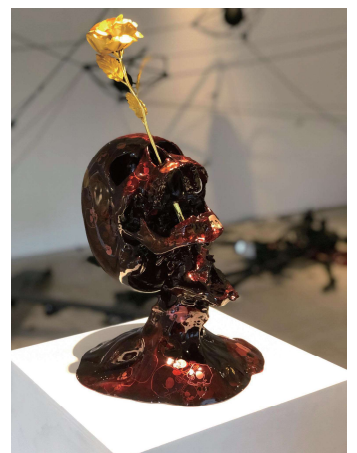
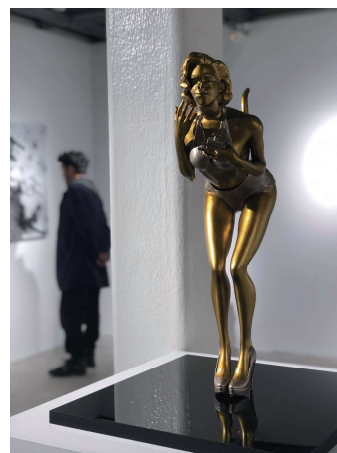
金野 家系がクリエイティブですね。

松嶺 やっかいなところもあります。なんでも建てるとか、つくるとか。「それは買いますよ」ってなることもあります(笑)

三田 奥さまはおじいちゃんとかとお話されることもあるんですか？

三穂 はい、しますね。昨日もおしゃべりしてます。いつも話してます。

松嶺 昔の知恵をいっぱい聞いてね。僕が便秘だっけ薬を飲もうとしたら、「いやいやミズを採ってきなさい」って言ってそれを毎日食べたりとか。



松嶺さんと浄法寺漆産業によるコラボレーション作品。
アート × 伝統工芸による創造のエクスポージョン（爆発）。
クロステラス 2F の特設アートギャラリーにて、これまでの
松嶺さんの活動の軌跡を時系的に展示・紹介中。必見です。